

2017年度

S 日本史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の文1～5を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 歴史とは勝者の歴史であるとともに敗者の歴史でもある。日本古代史の敗者の一例に蘇我氏があげられる。蘇我氏は、5世紀に権勢をふるった葛城氏の女性と蘇我稲目が結婚し、その間に馬子が生まれて葛城氏の勢力や財産を受け継ぐことで発展した。葛城氏の支配領域には渡来人系氏族が居住していたが、蘇我氏はこうした氏族と結び、朝廷の財政を握った。¹⁾稲目が大臣のとき百済から仏教が伝来すると蘇我氏はその祭祀を担うこととなり、587年に仏教受容に反対する大連の（イ）を馬子が滅ぼして蘇我氏の権勢は強大なものになったといわれている。

蘇我馬子は推古天皇、厩戸王らとともに、激動期の東アジア情勢のもと国家形成に尽力した。馬子が完成させた飛鳥寺は外国使節が倭の国力を評価する要因になったともされ、道路建設なども主導した彼は推古天皇から強い信頼を得た。その子蝦夷も公共事業の権限を受け継いだ²⁾が、唐が中国を統一して軍事的脅威が増し、推古天皇が死去すると、王権を誇示するこうした事業の必要性はさらに高まった。彼は飛鳥岡本宮や百済大寺の建設を指揮し、642年に即位した（ロ）天皇の宮である飛鳥板蓋宮の造営に携わった。

蝦夷は息子の入鹿に蘇我氏族長の位を譲ったが、これは蘇我倉山田石川麻呂との蘇我氏内での対立を深め、入鹿が厩戸王の息子の山背大兄王を討つと、蘇我氏本家と周囲との対立はさらに厳しくなった。645年、蘇我倉山田石川麻呂、³⁾中大兄皇子、中臣鎌足らは飛鳥板蓋宮で入鹿を殺害、蝦夷も自害して蘇我氏本家は滅亡した。こののち（ロ）天皇は退位し、その弟の軽皇子が即位して孝徳天皇となった。この政変について『日本書紀』には、蘇我氏が天皇家に取って代わろうとしたため成敗されたと描かれている⁴⁾が、それまで蘇我氏が担ってきた公共事業や仏教の祭祀について、天皇家が直接管理する権限を奪い取ったととらえることもできる。

2. 敗者について逸話や物語が語り継がれることがある。藤原北家によって政界から追放された菅原道真をめぐる物語もその1つである。藤原北家は冬嗣が嵯峨天皇の信任を得て蔵人頭となり、天皇家と姻戚関係を結ぶことで勢力を伸ばしたが、その子良房は承和⁵⁾の変、応天門の変により他氏出身の官人を排斥した。その地位を継いだ基経は、その後⁶⁾関白となるが、阿衡に任ずるとした（ハ）天皇による勅書に抗議してこれを撤回させ、政治的地位をより強化した。

基経の死後、藤原氏を外戚としない（ハ）天皇は摂政・関白を置かず、学者の菅

原道真を重用した。だが続く醍醐天皇⁷⁾のとき、左大臣藤原時平は右大臣の道真が娘婿の齊世親王を即位させる陰謀をはかっていると讒言し、道真は大宰権帥に左遷され任地で死去した。死後、道真の怨霊の祟りが語られるようになり、京都には北野天満宮⁸⁾、道真の墓所と伝えられる場所には太宰府天満宮がつくられ、のちに彼は学問の神として信仰されることになった。

3. 敗者の物語として逸することができないのは、治承・寿永の乱の敗者平氏⁹⁾を描いた『平家物語』だろう。平治の乱¹⁰⁾のち後白河上皇を武力で支え政治の実権を握った平清盛は、娘徳子を高倉天皇の中宮に入れた。1177年に鹿ヶ谷の陰謀が発覚すると、清盛は後白河法皇を幽閉し、多数の貴族を処罰して官職を奪った。その後清盛は徳子の子を安徳天皇として即位させ外戚として威勢をふるったが、このことが平氏への不満を高めることになった。

1180年、後白河法皇の皇子・以仁王が平氏打倒のための挙兵の令旨を発し、源頼政が挙兵するが、この両者は敗死する。だが、伊豆の源頼朝、木曾の源義仲など各地の武士団が挙兵して内乱は全国に広がった。1183年には北国の（ニ）での戦いで義仲が平氏軍を撃破し、平氏は都落ちする。翌年、頼朝の弟・範頼と義経¹¹⁾の軍勢に一の谷で敗れた平氏は、1185年、屋島で義経軍の急襲を受け、壇の浦に追いつめられる。ついに、壇の浦の海戦で平氏軍は敗北、安徳天皇は入水し、平氏は滅亡した。

4. 近世日本を支配した徳川家の治世も多くの敗者をつくりだすことで築かれた。敗者のひとつが豊臣家である。全国統一を進めていた織田信長が本能寺で討たれると、羽柴（のちの豊臣）秀吉は明智光秀、柴田勝家を破って信長の後継者の地位を確立した。1584年の小牧・長久手の戦いでは（ホ）・徳川家康連合軍に苦戦し和睦に終わったが、翌年秀吉は朝廷から関白に任じられた。その後、天皇から全国の支配権をゆだねられたと称して、全国の戦国大名に停戦を命じ、領国の確定を自らの裁定にゆだねる（ヘ）を発した。こうした過程を経て、1590年、秀吉は全国統一¹²⁾を完成した。

内政的には勝者となった豊臣家だが、秀吉は1592年と1597年に朝鮮に大軍を送る戦役を起こし、苦戦の末、秀吉の死後に撤兵することになった。朝鮮では壬辰・（ト）の倭乱と呼ばれるこの戦役は、朝鮮の人々に大きな被害を与えただけでなく、国内的には膨大な戦費と兵力を無駄にすることになって豊臣政権を衰退させ、豊臣家臣団内の対立を深刻化させた。徳川家康は秀吉の遺児秀頼を補佐する五大老・五奉行体制の中心人物だったが、豊臣家臣団を分裂させて自らの権力を強化しようとし、上杉景勝に謀反の¹³⁾

嫌疑をかけ会津攻めに出陣した。これを見た石田三成は毛利輝元らと家康打倒の檄文を発し、家康派と三成派の戦争は必至となった。

1600年、両派が激突した関ヶ原の戦いは家康率いる東軍の勝利に終わり、三成は京都で処刑された。その戦後処理では、三成方だけでなく、豊臣家も直轄地を3か国約60万石に減らされた。家康は1603年に征夷大將軍の宣下を受けて江戸に幕府を開いたが、1605年には將軍職を子の秀忠に譲り、徳川家の世襲であることを諸大名に示した。1614年、秀頼が再建した方広寺¹⁴⁾の鐘銘が徳川家にとって不吉であると口実を設け、大坂城の秀頼軍を攻めた。この戦いの和睦後徳川方は大坂城の堀を埋め立て、家康は翌年再び大坂城を攻めた。この戦いで大坂城は落城し、秀頼と母淀殿は自害した。

5. 徳川の治世は他にもさまざまな敗者を生み出したが、キリスト教もそれに含まれると考えることができる。1549年に日本にもたらされたキリスト教は西日本を中心に急速に勢力を増し、1582年には3名のキリシタン大名がヨーロッパに使節を派遣した。信長、秀吉ともキリスト教の布教を認めていたが、秀吉は1587年に大名らのキリスト教入信を許可制にし、宣教師の国外追放を命じた。また、1596年に土佐に漂着した(チ)号の乗組員が、スペインが領土拡張に宣教師を利用していると証言したことがきっかけとなり、秀吉によって宣教師と信者26名が捕えられて長崎で処刑されるという事件も起きた。

徳川幕府も当初はキリスト教を黙認していたが、1612年に直轄領に禁教令を出し、さらに全国にこれを及ぼした。1614年にはキリシタン大名高山右近らをマニラとマカオに追放し、1622年には長崎で宣教師・信徒ら50数名を処刑した。1637年、苛酷な年貢取り立てとキリシタン弾圧に抵抗した土豪や百姓らが島原・天草一揆を起こした。原城跡に立てこもった3万人余の一揆勢に対して幕府は約12万人の兵力を動員し、老中(リ)を派遣して約4か月後によくこれを鎮圧した。こののち、キリスト教への統制は強化され、勝者徳川家のもと長きにわたって大規模な内乱はなくなった。

A. 文中の空所(イ)～(リ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線1)～16)にそれぞれ対応する次の問1～16に答えよ。

1. このうちの西文氏の祖とされ、『論語』をもたらしたと伝えられる人物は誰か。次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。

a. 観勒 b. 曇徴 c. 弓月君 d. 王仁

2. これと日本との交流に関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. これへの大使に任じられた菅原道真是、派遣の中止を建議して認められた
 - b. これを訪れた吉備真備は、のちに元正天皇に重用され政界でも活躍した
 - c. 日本からこれへの航路は当初は南路だったが、8世紀以降北路に変わった
 - d. 倭がこれに臣属しない形式の国書を送ったため、これの皇帝の怒りをかった
3. この人物はのちに即位式を行わずに君主権を行使したが、このことを何と呼ぶか。その名をしるせ。
4. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 「旧辞」などをもとに太安万侶が筆録したものである
 - b. 神代から推古天皇に至るまでの歴史が天皇中心に記されている
 - c. 中国の古典や編纂当時の法令によって文章を作成した部分がある
 - d. 朝廷によってこれのすぐ次に編纂された漢文正史は『日本後紀』である
5. この官職を設ける契機となった事件は何か。その名をしるせ。
6. これにより退けられた人物は誰か。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 紀夏井
 - b. 橘逸勢
 - c. 伴善男
 - d. 源高明
7. この人物の治世下の出来事でないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 荘園整理令を出すなど、律令体制の復興がめざされた
 - b. 摂政・関白がおかれず、親政が行われた
 - c. 本朝十二銭の最後となった貨幣が発行された
 - d. 六国史の最後となった正史が編纂された
8. これを主題にした『北野天神縁起絵巻』と同じ鎌倉時代の作品でないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 一遍上人絵伝
 - b. 男衾三郎絵巻
 - c. 信貴山縁起絵巻
 - d. 紫式部日記絵巻

9. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 伊勢平氏の平正盛は、北面の武士にとりたてられた
 - b. 西国の武士の一部を地頭に任命し、家人とした
 - c. 全盛期には、日本全国の約半分の知行国を支配して経済的基盤とした
 - d. 平将門は下総・上総・安房の国府を攻め落とした
10. この乱において清盛の敵方として戦った人物は誰か。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 崇徳上皇 b. 平忠正 c. 藤原信頼 d. 源為義
11. この人物をかくまった奥州藤原氏に関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 金や馬などの産物や北方との交易で得た富で京都の文化を移入した
 - b. 中尊寺、毛越寺といった浄土教の寺院を建設した
 - c. 藤原清衡は後三年合戦において源義家に助けられた
 - d. 藤原秀衡は源頼朝の要求に屈服し、義経を殺した
12. これに関する次の出来事 a～d のうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで順にマークせよ。
- a. 奥州平定 b. 小田原攻め c. 九州平定 d. 四国平定
13. これでない人物は誰か。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 浅野長政 b. 小早川隆景 c. 長束正家 d. 前田玄以
14. この人物に関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. この人物の子が称徳天皇以来の女性天皇となった
 - b. 代がわりにあたり 30 万余の軍勢とともに上洛した
 - c. 福島正則を武家諸法度違反によって改易した
 - d. ポルトガルに商人の田中勝介を派遣した
15. この 3 大名でない人物は誰か。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 有馬晴信 b. 大友義鎮 c. 大村純忠 d. 小西行長
16. このキリシタン迫害事件は何と呼ばれるか。その名をしるせ。

Ⅱ. 次の文1～8を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 橋は、架け替えが行われるだけでなく、自然災害による破壊、流失、あるいは戦乱の際の人為的な破却に遭うことも多い。そのため、断橋したままとなったり、初めて架橋された時の位置や構造が不明になっている場合も少なくないが、そうした橋を含めて、歴史上には様々な橋が登場する。

壬申の乱¹⁾の勝敗が決した場所として知られる勢多（瀬田）橋は、その後も軍事・交通の要衝であった。『小右記』が11世紀前半の焼失を伝えているように、幾度も焼失・崩落・流失を経ながら、再建が繰り返された。天下統一事業の過程で、橋・道路の修築や新たな設置を進めたことで知られる織田信長は、勢多（瀬田）橋も再建したが、その時に架けられた勢多（瀬田）橋は、中程に休憩所も設けられた「逸材の木橋」であったことを、イエズス会司祭（イ）の著書『日本史』は伝えている。

2. 鎌倉時代の紀行文である『十六夜日記』は、作者である（ロ）が訴訟のために京から鎌倉に下るための旅を記したものである。その道中では、架橋されずに渡河する場所も見られるとともに、当時架橋されていたと考えられる八橋や浜名の橋への言及が見られる。三河の国の八橋は、『伊勢物語』の「東下り」にも取り上げられた場所として、鎌倉時代に名所として伝わっていた³⁾と考えられ、『東関紀行』でも、作者が鎌倉に向かう旅程で八橋に立ち寄る様子が記されている。

3. 江戸に入った徳川家康は、徳川幕府成立以前に、浅草川（隅田川）に千住大橋と呼ばれることになる橋を架けたが、それより下流には当初は架橋させなかった。しかし、1657年に起きた、振袖火事とも呼ばれた（ハ）の大火を契機に、両国橋と呼ばれることになる橋が架けられ、17世紀から18世紀にかけて新大橋、永代橋、大川橋（後に吾妻橋）が架けられた。このうち永代橋は、19世紀初頭、祭礼に行く群衆らのため崩落し、多数の死者を出す大惨事となった。19世紀末には鉄橋として架け替えられた永代橋であったが、木造の橋樑は関東大震災⁴⁾の際に焼け落ち、関東大震災後の復興事業⁵⁾の中で架け替えられた。

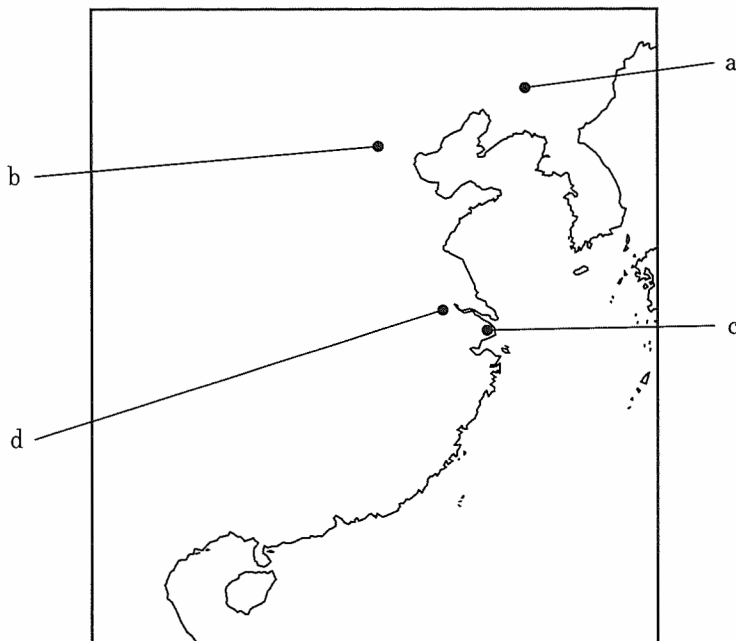
4. 東廻り・西廻り航路（海運）を整備したことで知られる（ニ）が、淀川治水のため、17世紀後半、安治川を開通させたことなどにより、大坂は、水運を活用した商業活動で繁栄を極めることとなった。八百八橋と称されるほど橋の多い都市となった大坂の

様子は、(ホ) 作の『心中天網島』における「名残の橋づくし」にもあらわれている。

5. 日本橋は、江戸時代に国内里程の起点となり、歌川(安藤)広重の『東海道五十三次』でも描かれたが、木造の橋として幾度も架け替えられた後、⁶⁾1911年に石造の橋として架け替えられた。日本橋は橋としての名称であるとともに、⁷⁾日本橋を中心として広がる江戸・東京の一大商業地区の名称にもなってきた。日本橋周辺には江戸・東京の金融活動の中心地が形成され、東京駅とともに建築家(ヘ)の代表作として知られる日本銀行本店や、1932年、(ト)事件の一つである団琢磨暗殺の現場となった三井本館も、橋としての日本橋からほど近くに位置している。
6. 盧溝橋は、元朝の開祖であるフビライ=ハンに仕えたマルコ=ポーロによって、賞賛⁸⁾された石橋⁹⁾である。1937年、この橋付近で起きた日本軍と中国軍の衝突事件をきっかけとして日中戦争が始まり、¹⁰⁾戦争は長期化していった。
7. 日露戦争の際の勝利を契機として、築地一月島間に「かちどきの渡し」が設けられた。¹¹⁾この渡しでの移動はやがて勝鬨橋での行き来にかわっていくが、その勝鬨橋が開通したのは、日本が日独伊三国(軍事)同盟に調印した1940年のことであった。この年には、¹²⁾国民統合をはかって「紀元(皇紀)二千六百年」奉祝典が行われる一方、津田左右吉の著書が発禁とされ、議会で日中戦争に批判的な演説(反軍演説)を行った衆議院議員が議員を除名される¹³⁾など、思想・言論に対する統制の一層の強化を示す事件が起きている。
8. 本州と四国を結ぶ橋梁を建設する構想は戦前からあったものの、計画が具体化したのは1950年代であった。本州四国連絡橋を3ルート並行で着工する予定は、第4次中東戦争が勃発して、「石油戦略」が行使され、第1次石油危機が起こる中でいったん凍結された。その後、¹⁴⁾現在(チ)と総称されている兎島一坂出ルートが1978年に着工された。この工事は10年近くかかり、1988年に開通に至った。同年の青函トンネルの開業と(チ)の開通により、北海道・本州・四国・九州が陸路で結ばれることとなった。このころは、世界情勢が大きく変わろうとし、日本の政治や経済の状況もそれらと連動¹⁵⁾してゆれ動きつつある時期でもあった。¹⁶⁾

- A. 文中の空所(イ)～(チ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。
- B. 文中の下線部 ____ 1)～16)にそれぞれ対応する次の問1～16に答えよ。
- これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - 近江朝廷側は大伴氏らの協力も得て戦ったが敗北した
 - 大海人皇子は吉野で挙兵後、美濃に移って東国の兵を結集した
 - この出来事の前年に八色の姓が制定された
 - 天智天皇の異母弟である大海人皇子と天智天皇の孫である大友皇子の皇位継承をめぐる争いであった
 - この時期の出来事はどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - 後三条天皇が即位し、大江匡房らの人材を登用した
 - 八条院領と長講堂領など天皇家領荘園群が形成された
 - 藤原純友が海賊を率いて反乱をおこした
 - 房総地方で平忠常の乱が起こった
 - この作品に関する説明として正しいのはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - 一貴族の生涯を和歌を交えて綴った作者不詳の作品である
 - 紀貫之によって女性をよそおって書かれた紀行文である
 - 仏教的無常観のもとで鴨長明によって書かれた作品である
 - 漂泊の詩人西行によって書かれた歌集である
 - この時期の出来事はどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - アメリカ東インド艦隊司令官ビッドルが日本に来航して通商を要求した
 - オランダ国王から幕府に開国を勧告する親書が送られてきた
 - 高野長英が『戊戌夢物語』を書いて、幕府の対外政策を批判した
 - 幕府は松前藩から西蝦夷地を含めて松前・蝦夷地すべての支配権を取り上げた

5. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 加藤友三郎の死後、田中義一内閣の組閣中に発生した
 - b. 震災発生後に労働運動の指導者らが軍隊によって殺害される虎の門事件が起こった
 - c. 震災発生後、流言が広まり、自警団を組織した民衆や、軍隊、警察の手によって多数の朝鮮人や中国人が殺害された
 - d. 清浦奎吾内閣は、震災を主な要因として起こった金融恐慌に対してモラトリアム（支払猶予令）を発し、銀行が預金者へ預金を払い戻すことを一時停止させた
6. この人物に関する記述はどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 18世紀後半まで活躍した人物で、遠近法を取り入れた画風を確立し、『保津川図屏風』でも知られている
 - b. 18世紀後半まで活躍した人物で、その画風は明や清の影響を受け、『十便十宜図』でも知られている
 - c. 19世紀半ばまで活躍した人物で、『名所江戸百景』でも知られている
 - d. 19世紀半ばまで活躍した人物で、『富嶽三十六景』でも知られている
7. この年に平塚らいてうらによって創刊された女性による文芸誌で、やがて女性の権利の拡張を訴えるようになった雑誌は何か。その雑誌名をしるせ。
8. この橋が架けられたのはどこか。次の図中の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。



16. これに関する出来事 a～dのうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように ivまで年代順にマークせよ。

- a. 5ヵ国蔵相・中央銀行総裁会議で、ドル高の是正が合意された（プラザ合意）
- b. 国連平和維持活動（PKO）協力が成立した
- c. 冷戦の象徴であった「ベルリンの壁」が壊された
- d. 湾岸戦争が勃発した